

## 追悼 吉川虎雄先生

茅根 創 (地球惑星科学専攻 教授)

吉川虎雄名誉教授 (地理学専攻\*) は、2008年8月19日に逝去されました。享年86才でした。

先生は、1944年に東京帝国大学理学部地理学科を卒業、お茶の水女子大学助教授を経て、1952年に東京大学理学部講師、1953年助教授、1961年教授として、1982年に退官されるまで30年にわたって、理学部地理学教室において研究・教育と教室の運営に尽力されました。2講座だけの教室の運営はたいへんだったと思いますが、少人数の特色を活かした密度の濃い教育体制がつけられていました。

先生のご研究は地形学で、過去数十万年 (第四紀) の地球環境変動の枠組みの中で地形発達を解釈する新しい地形学の構築を、湿润変動帯に位置する日本の特色を存分に活用して進められました。

海岸段丘が、地殻変動と氷期 - 間氷期の海面変動との所産であることを明らかにした論文は、欧米の研究に10年以上先んじるものでした。公表当時は欧米の研究者には、地殻変動がそんなに速いはずがないと信じてもらえなかったとおっしゃっておられました。

通説に寄りかかることなく、野外調査や観察に基づいて客観的に解釈を導く研究姿勢は一貫しており、退官後も大陸棚の形成についてこれまでの通説とは異なる解釈を提示されました。

吉川先生のあと地形学の完成に尽力された米倉伸之先生も、退官直後にすでに逝去されました。おふたりの世代がつけられた新しい地形学は今では地球科学の常識となっています。私たちはこれを基盤として次のステップに進めていかな



■ 故・吉川虎雄先生

ければなりません。

先生のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

\* 現在は地球惑星科学専攻に改組。

## 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(2008年8月, 9月)

(※) は原著が英文 (和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
<b>2008年9月26日付学位授与者 (2名)</b>			
課程博士	地惑	鹿倉 洋介	有限要素を用いたプレート沈み込み帯の力学的・熱的構造発達シミュレーション (※)
課程博士	生化	有本 京子	細胞質内ストレス顆粒形成によるストレス応答 MAPK 経路の制御 (※)
<b>2008年9月30日付学位授与者 (10名)</b>			
課程博士	物理	坂井 南美	低質量形成領域における「暖かい炭素鎖化学」の発見とその宇宙物理学的意義 (※)
課程博士	物理	辰巳 創一	粉体系の動力学と不安定性に関する実験的研究
課程博士	地惑	岩前 伸幸	深海における潮汐混合のパラメタリゼーションの改良に向けた数値的研究 (※)
課程博士	地惑	久保 泰	足跡化石から推測される陸棲四肢動物の姿勢進化 (※)
課程博士	地惑	齋藤 実穂	サブストーム開始を担う磁気圏プラズマ過程の観測的研究 (※)
課程博士	地惑	佐藤 広幸	火星地すべり地形の多様性の研究 ~火星環境変動への意義~ (※)
課程博士	地惑	鈴木 絢子	火星衝突クレーターにみられる Double Layered Ejecta の形成過程 (※)
課程博士	地惑	宮地 鼓	日本の完新世沿岸気候変動に対するカガミガイの殻成長特性の応答 (※)
課程博士	生科	近藤 江里	カタユウレイボヤ卵による精子誘引制御機構の研究 (※)
課程博士	生科	劉 中美	クラミドモナス新規突然変異株を用いたダイニン外腕重鎮の機能に関する研究 (※)

## 人事異動報告

所属	職名	氏名	異動年月日	異動事項	備考
植物園	技術専門員	高橋 弘行	2008.8.4	退職	
地惑	技術職員	小林 明浩	2008.9.1	採用	
化学	学術支援専門職員	村本 育世	2008.9.1	採用	
物理	助教	樋上 和弘	2008.9.30	退職	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授へ
化学	准教授	唯 美津木	2008.9.30	退職	自然科学研究機構分子化学研究所准教授へ
化学	助教	本倉 健	2008.9.30	退職	東京工業大学大学院総合理工学研究科講師へ
生科	特任准教授	堀口 吾朗	2008.9.30	退職	立教大学准教授へ
物理	講師	原田 崇広	2008.10.1	採用	福井大学大学院工学研究科講師から
物理	助教	坂井 南美	2008.10.1	採用	
スペクトル	事務室主任	檜山 宏司	2008.10.1	配置換	教育学部・教育学研究科主任から

## あとがき

本年4月に生物科学専攻の上田貴志准教授と交代して初めての編集担当ということで戸惑っていた矢先の10月14日、「南部陽一郎先生ノーベル賞受賞」というたいへんおめでたいニュースが報道されました。この日から本11月号の構成が大きく変わり、急遽今回の特別記事が加わった次第です。きわめて短期間でこのように内容の充実した特別記事が掲載されたのも、ひとえに物理学専攻の先生方のお蔭であると感謝しています。

「発掘 理学の宝物」は、三崎の臨海実験所の廊下に無造作に飾られていたという「幕府献上魚図」の発見です。私は毎年、植物課程の臨海実習で実験所を利用していますが、当然この魚図の存在にまったく気がつきませんでした。見る人が見ないとものの価値はわからないということでしょう。臨海実験所

所長の赤坂甲治教授によると、臨海実験所にはまだまだお宝がたくさんあるとのこと。さすが日本最古の臨海実験所です。今回の「理学からはばたけ」の一人は夢の職業、「酒の鑑定官」の北山さんです。ぶどう畑での写真は「国税庁」というイメージを一新すると思います。もう一人は海上保安庁の吉田さんで、こちらも天文学のイメージを一新するものとなっています。

今回の広報誌のキーワードはなんとといっても南部先生の「自発的対称性の破れ」だと思います。これにより素粒子のことから宇宙のはじまりまで説明できると、生物科学専攻の私なりに理解したつもりです。対称性が破れて急激に成長した宇宙のように、大きなポテンシャルをもつこの広報誌も将来的に大きく成長し、ますます良いものになっていくと期待しています。というわけで、新米の編集委員です。よろしくお願いします。

野崎 久義 (生物科学専攻 准教授)

第40巻4号

発行日：2008年11月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会 (e-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

牧島 一夫 (物理学専攻) maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

横山 央明 (地球惑星科学専攻) yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義 (生物科学専攻) nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

米澤 徹 (化学専攻) tetsu@chem.s.u-tokyo.ac.jp

斉藤 直樹 (庶務係) nsaito@adm.s.u-tokyo.ac.jp

加藤 千恵 (庶務係) c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション：

横山 広美 yokoyama@sp.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当：

柴田 有 (情報システムチーム) yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン：

大島 智 (情報システムチーム) satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷・・・三鈴印刷株式会社